

学校法人八王子キリスト学園 八王子幼稚園

自己点検・評価および学校関係者評価

2025年度

建学の精神	
八王子キリスト学園八王子幼稚園は、プロテスタント(福音主義)のキリスト教精神による幼児教育を行い、聖書の証しするキリスト・イエスの愛の教えとわざに基づき、互いの個性を尊重し、信頼と友情を築き上げることを通して、共に生きる喜びを知らせ、幼児の健やかな成長を助長することを目指す。	
教育目標	神さまを愛し、自分を愛し、周りの人を愛する。 「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」「隣人を自分のように愛しなさい。」(聖書)
《幼稚園方針》	キリスト教の精神に基づき、ひとりひとりのお子さまを「神と人から愛される」人として大切にしています。お子さまたちが未来に向かって生き生きと喜びを得ながら人生を歩むために必要となる力の根っこを育てることが幼稚園の使命と自覚しています。
①神の愛を知る	毎日、祈りや讃美歌。週に一度、礼拝。聖書の言葉を通して神さまがどんなに一人ひとりを愛されているかを伝えます。
②自分を受け入れる	大切なひとりとして受け入れられることによって、人生の基礎を築き、その後人生において夢や希望をもち、人間関係を築けるようになります。
③友達と共に過ごす	自分を受け入れることによって、他の友達も受け入れるようにしていきます。友達と一緒に何かを作っていく土台をつくり、社会における人間関係を築くようにしていきます。
④探求し、創造する	自由な遊びを通して、一人ひとりが意欲と主体性をもって心を動かし、探求し、想像力を膨らませながら、何かを創造していく力をつけていきます。
⑤正しい判断と責任感を育む	何が正しいことか悪いことかを考えるようにします。自分の役割、責任を持つことで、責任感も育むようにします。

2025年度重点項目

より深い学びにつなげるため話を聴く力を身につける。
教育の質の向上のために研修への積極的な参加をする。
保幼小連携を通して卒園後の子どもたちの置かれる環境について理解を深める。

八王子キリスト学園八王子幼稚園 自己点検・自己評価

A: 十分達成されている
B: 達成されている
C: 取り組まれているが、成果が十分ではない
D: 取り組みが不十分である

1. 教育課程の編成と実施に関する点検・評価

項目	内容	集計結果				評価	理由
		A	B	C	D		
教育目標について	(1) 建学の精神は、全教職員で共通理解を図っているか。					A	
	(2) 教育目標は、全教職員で共通理解を図っているか。					A	
	(3) 教育目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか。					A	
指導について	(1) 幼稚園教育要領に基づく指導援助が適切に行われているか。					A	<ul style="list-style-type: none"> ・雑草がうっそうとする時期がある。教職員同士で声掛けして、小綺麗にはしておく。 ・教材・教具の使い方では、自由と無駄遣いの線引きが曖昧。 ・園庭での砂場のおもちゃの出っぱなしが目立つ。片付けまでをおまごとして楽しめるように。 ・絵具や画材などはクラス管理にして、適宜処分購入していく。
	(2) 環境の構成を意識した指導の方法や過程を工夫しているか。					B	
	(3) 自然を感じられるような園庭を整備しているか。					B	
	(4) 教材・教具を適切に活用しているか。					B	
	(5) 結果を基に、指導の改善に努めているか。					A	
	(6) 保育カウンセラーの助言を保育に活かしているか。					A	
行事・カリキュラムについて	(1) 行事の種類や実施回数は適切か。					B	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児は特に3学期が行事が多く、子どもたちがどこまで一つ一つのことに気持ちを向けられたか課題が残った。ありがとうの会を年中、年少主催にしたらどうか。 ・年少などでは、ある程度教師が環境設定をした中で子どもたちに出すのは必要な関りだが、みんなで何かをするのが楽しいと思えたり、活動に夢中になる経験のできる工夫は必要。
	(2) 行事のねらいを計画や実施にいかしているか。					A	
	(3) 幼児にとって自主的・主体的な活動にしているか。					B	
	(4) 計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。					A	
	(5) 体育遊び(ジム)は幼児の心身の発達を促す活動となっているか。					A	

2. 教育課程の編成と実施を支える諸条件に関する点検・評価

項目	内容	集計結果				評価	
		A	B	C	D		
経営・組織	体制	(1) 能率的・合理的な運営組織となっているか。					B
		(2) 協働できる体制となっているか。					B
		(3) 職員の配置は適材適所か。					B
		(4) 仕事の分担は適切か。					B
	運営	(1) 打ち合わせ・会議は適切かつ効率的か。					B
		(2) 教職員相互が協力・助言を惜しまず園の運営に関わっているか。					B
	学年経営	(1) 学年目標は、教育目標に基づいて設定しているか。					A
		(2) 学年目標を基に、一人ひとりであった保育を実施しているか。					B
		(3) 学年目標に基づいた活動のねらいはクラスの実情を踏まえて適切に設定しているか。					A
		(4) 異年齢児間の活動のねらいは適切に設定しているか。					B
		(5) 資料(諸記録)の作成と保存は適切か。					B
	保健・安全指導	(1) 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。					A
		(2) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のための指導を適切に行っているか。					A
	研究・研修	(1) 園内研修の計画・運営は適切か。					A
		(2) 各種研究会、研修会、講演会への参加体制の充実を図っているか。					B
(3) 各種研究会、研修会、講演会での内容を園内に還元しているか。						C	
つらい報告に	(1) 幼児・保護者・教職員に関する個人情報を適切に取り扱っているか。					A	
	(2) 各表簿は適切に作成・処理されているか。					A	
施設・整備	(1) 園舎・園庭の施設・設備の点検を定期的に行っているか。					B	
	(2) 遊具・用具・教材等を、活用しやすいように整理・保管しているか。					B	
	(3) 不審者等に対する訓練を行っているか。					B	
	(4) 掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。					B	
家庭の連携と	(1) 保護者の理解を得るために参観、面談等を設定しているか。					A	
	(2) 園だより、手紙等の内容は適切か。					A	
	(3) 特別支援を要する場合、家庭との連携状況は適切か。					A	
	(4) 地域の小学校、保育園との連携を図り、互いに情報共有をし、子どもたちのより豊かな成長に繋がる学びを深めているか。					A	
子育て支援	(1) 子育て支援として、保護者あるいは親子を対象とした活動は充実しているか。					B	
	(2) 地域の実情を踏まえ、預かり保育を行っているか。					B	
	(3) 教職員による育児に関わる子育て相談の機会は充実しているか。					A	
	(4) 医療機関、療育機関(臨床心理士)等の専門機関と連携を図り、保護者に必要な情報を提供しているか。					A	

3. 今後取り組むべき課題

課題	取り組み
教育目標の共通理解	キリスト教保育をうたう幼稚園として、月間聖句の話や園便りの園長先生の話など、教師が学ぶ機会を作る。また、聖書の絵本や紙芝居などを年度初めに共有して各クラスに分ける。
教職員の資質向上	保育の見直しを適宜できるように、他クラスに補助として入る機会を作ったり、各自が受けた研修のフィードバックを丁寧にする。
行事・カリキュラムの評価と改善	子どもの自主性、主体性を伸ばすことに繋がるように、一つ一つのカリキュラム、行事を丁寧に考えていく。
教職員の連携	各クラスの共有は掃除の時間や朝の保育が始まる前に日々丁寧にしていく。まきばの先生への共有が足らなかったため、配慮が必要な子どもがいる時は、まきばに送る際に担任からまきば担当教員に情報共有をする。
施設・整備の点検と更新	現在のやり方(月に1回の点検)を続けていく。
地域・学校間交流	現在している保幼小連携の関わりは続けていき、地域との交流は食育の活動に合わせて考えていく。

4. 学校関係者評価

- ・令和7年度より施行された新寄附行為に基づき運営が進められている。
- ・教育目標を再確認し、園児一人ひとりの良き成長を願って学園関係者、教職員が一体となって保育を進められている。
- ・安心、安全を第一に、施設の老朽化や不審者対策にも取り組んでいる。(フェンス工事等)